

RW-112Lは方向性結合を応用した超短波、極超短波電力計であり、送信機とアンテナの給電線中に挿入し、送信電力の測定及び、送信機の出力回路及び空中線の整合調整等に使用する装置です。

### 性能

1. 周波数がワイドで有る(1.2GHzレンジを有する)
2. 周波数補正の必要が無い
3. RW-112Lは給電線中に挿入した時に生じる回路じょう乱はほとんど有りません
4. 送信機の進行電力と反射電力を動作状態で同時に測定出来ます
5. プッシュボタン方式と使い易い
6. 安価である(VSWR等プロ級の性能)
7. ユニットは精密な同軸構造(実測1300MHzにてVSWR 1.15以下)

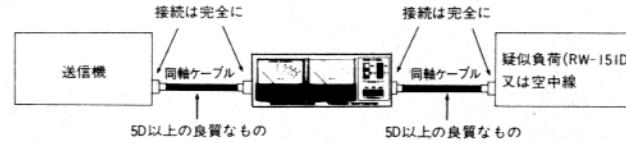
### 規格

周波数範囲: 144/430/1300MHz帯  
 測定電力: 100/20(10)W(反射電力20/5(3)W)  
( )内は1300MHz専用  
 インピーダンス: 50Ω回路用  
 電圧定在波比: 1.15以下  
 指示誤差: フルスケールの±10%以内  
 連続使用条件: 定格電力(最大電力の約80%)で1時間連続動作  
 接栓方式: N型  
 寸法: 200×76×90mm

### 取扱使用方法

(下図参照)

図 A



1. 本体側面にあるLOAD側の接栓座に擬似負荷又はアンテナを50Ωの同軸ケーブルで接続します
2. 本体側面にある送信機側の接栓座に送信機出力端子から50Ωの同軸ケーブルで接続します
3. 本体前面周波数切替スイッチを送信機の周波数にあわせて押します(144, 430, 1300MHz)
4. 本体前面のPf側の100Wレンジのスイッチを押して送信機を動作させ、出力を調整すれば、本器は送信機出力を指示しますから、この指示が最大になる様に調整します。なお出力指示が20W以下の場合には20/10Wレンジに切替して下さいその時Pr側の指示をみます。Pf側、Pr側の指示が同じぐらいの時は負荷がショート又は、オープン状態になっています。
5. 送信機と負荷の整合状態は前進電力をPf、反射電力をPrとしますと次の様になります。

$$\text{負荷電力 } PPL = Pf - Pr(W)$$

$$\text{電圧定在波比 } V.S.W.R = \frac{1 + \sqrt{RP}}{1 - \sqrt{RP}}$$

$$\text{電力反射係数 } RP = \frac{Pr(W)}{Pf(W)}$$

なをRW-112LにはSWR(電力反射係数)がすぐ求められる様にSWR CALCULATORが付属しています